

ローターアクトの会員増強 ―何、なぜ、アクト―

ローターアクト委員長 荒井 久生

本年度の第2600地区の活動は、小池真一地区代表のもと、伊那RACのメンバーを中心に、地区運営がされています。前半の大きな行事の一つであるアクターミーティングは、昨年11月7日（日）、飯田RACのホストで開催されました。

テーマは、『会員増強』。五つの分科会でローターアクトの活動全般を、するどく掘下げようという事で、活発な意見交換が行われました。

問題1：新人の意見として、会長との距離を感じ、例会に出にくい。

鐘とソングは宗教団体のような雰囲気もある。

- 新人を上手になじませる事は、会員増強の第一歩である。新人には、初対面の時、会長と直接言葉を交わしてもらい、親近感を高める等の配慮も必要である。
- 新人にもどんどん仕事をしてもらい、ちょうど学校の文化祭の時の様に、早い時期に団結心を共有することも有効である。

問題2：会員の勧誘をする場合、アクトはどんな活動をして何を目的としているかの説明が難しい。

- 今のローターアクトは、ややもすると親睦中心に流れて、奉仕や研鑽活動が弱体化しているのではないか？

県下7クラブの地区やメンバーの特色を生かしながら、活動目標、事業内容を議論しながら、更に内容を高める必要がある。

- 社会全体でボランティア活動への関心が高まっているが、活動に興味がある積極的な人にも参加してもらえるような、魅力のあるローターアクト、魅力のある日頃の活動が必要ではないか？

問題3：ローターアクトの知名度が低い。

- その為には新聞等、マスコミに載るような活動が必要である。
- そして、地区運営の大きな課題の一つがマスコミ対策であるというアクトの先輩の発言も過去にあった。そんな意味からも地区全体の奉仕活動を考え、活動の柱を再構築しなければならない。
- ひいては地区運営の強化、継続性を持たせる為に、役員任期の単年度制や、組織なども変えてゆく必要があるのではないか？

以上、当日の議論の一部をお伝え致しました。ローターアクトは企業派遣会員の増強を熱望しておりますが、個人加入会員の確保へも積極的に活動しております。

また、米山奨学生や、交換学生もアクトの活動に参加していただくなかで、留學生活の充実と、アクトの国際理解、交流の推進の両立が図れないか、との議論も一部に始まっています。

後半も新しい課題へのチャレンジは続きます。

ロータリー家族の重要な一員であるローターアクトへの更なる御支援、ご指導の程、よろしくお願い致します。